

2010 年度第 6 回執行理事会議事録

期 日：2010 年 11 月 13 日（土） 13:00～18:00

場 所：地質学会事務局

出席者：宮下会長 渡部副会長 藤本常務理事 斎藤副常務理事 小嶋 坂口 高木 内藤 中井
平田 星 向山 各理事，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：久田副会長（宮下） 井龍（渡部） 石渡（議場） 西（斎藤）
藤林（藤本） 山口（渡部） 各理事

* 定足数（12，委任状含む）に対し出席者 11 名，委任状 6 名，合計 17 名の出席で執行理事会の開催は成立。

* 前回議事録を承認した。

I 審議事項（関連する報告事項と合わせて説明）

1. 学会標準策定活動について（渡部副会長）

標準層序について国際的な対応等については執行理事会の国際担当機能の中で対応し，その他の地質標準の活動についての位置づけ等は引き続き検討する。

2. 学会における受託事業について（渡部副会長）

a) 学会における受託事業の考え方，規則類について

- ・事業受託等外部の要請に対応する制度を整える。

受託案件ごとに連携事業委員会（仮称）を設置し，検討のうえ，実施体制等を執行理事会に報告する。学会との間で契約行為がある場合は理事会の承認を得る。外部からの要請による委員の委嘱，講演依頼等は従来通り執行理事会が対応する。

受託事業の主な要件としては，地質学の普及啓発，地質学に関する学会標準，学術事業に関わるものであることなど，事業成果の公開性の保証，著作権の帰属可能等が必要。

以上のために受託研究取り扱い規程，国内旅費規程を策定すると共に，契約収入の使途などについて，今後検討が必要。

b) JNES のプロジェクト，柏崎深部地盤地震動観測の地質調査レビューについて

JNES による標記プロジェクトのボーリング調査内容についてのレビューを依頼される予定（会長に追って依頼状）。地質学会および JNES 双方の合意を得て委員会の設立準備をおこない，委員会は 2011 年度から発足させる予定。これによる地質学会としてのメリットは，公開された情報や資料は地質学会の活動や会員の研究活動に活用可能などがある。

3. 茨城大会関係（行事委員会：星理事）

- ・鉱物科学会との共催にあたって

筆頭講演の回数制限について（水戸大会は発表負担金を払えば 2 件目まで講演可能）。鉱物科学会は，何らかの事情がある場合，共著者による代理発表を可能にしている。特定の人が独占するようなことがないように，緊急避難的な場合に限ることが望ましいが，「緊急避難」を認定する方法を考える必要がある。危険性を鉱物科学会に示して早急な検討を待つ。

- ・コンベンション業者について

単面的にはやや高いようだが，現地や行事委員会でも特に悪い評価は出ていないので，茨城大会も

アカデミックブレインズに依頼することで問題はない。

4. 支部規則の確認について（渡部副会長）

提示しているモデル案では、事業年度終了 30 日以内に総会を開催、総会の定足数に書面やメールでの意思表示を可能にしている。各支部の現在の規則では定足数の考え方等にばらつきがあるので、基本的な条文についてはモデル案に沿って条文を揃えるようお願いする。追加条文、追加細則は認める。今事業年度中に各総会で支部規則等を確定させていただきよう、各支部に依頼する。

5. リーフレット「日本列島と地質環境の長期安定性」の原稿の受理について

- ・奥付記載原稿案は原案で承認、印刷見積りはとくに異論はなし。印刷部数を検討し、著者らにも販路の可能性を確認し、上限で 2000 部程度が妥当とした。原稿は最終的には字句の小修正を再度行った後確定とする。

6. 理事会議題について

- ・竹下理事より、寄付金を集める場合の手続きに関する依頼事項について総務で担当し、竹下理事と協議の上、理事提案で手続き出させていただきよう進める。
- ・審議事項(要議決事項)：寄付金手続き案、受託事業案及び関連事項、2011 年度事業計画(理事に要望を出すよう通告する)。
- ・報告事項：執行理事会報告、支部関連事項、茨城大会進捗状況、広報中期計画

7. その他

1) 広報関係の中期計画について

ジオルジュ、友の会 SNS、惑星地球フォトコンテストを連携させていく。友の会が 10000 人くらいになって 1 割が有料オプション(例えば 1000 円/年)を選んでくれば、友の会会員に対しジオルジュや学会発行のリーフレット(たんけんマップなど)を配ることができる。ジオルジュと地質ニュース誌との連携としては、ジオルジュ記事の再掲載なら検討可能。

2) 地震火山こどもサマースクール(地震学会・火山学会主催)への参画について

2010 年(室戸)は後援したが、2011 年度からは共催団体として実質的(委員および共催金の 20 万円の分担拠出)に参画することになった。今年の室戸、来年の磐梯山と、ジオパーク及びジオパークを目指しているところで行うことが定着しつつあることもあり、ジオパーク支援委員会が担当し、ジオパーク支援委員会の事業として、予算にも組み入れる。

3) 連合の「大気海洋・環境科学セクション」(代表 中島映至)の名称変更についての意見聴取について特段の意見はないとして、回答する

4) 国際地学オリンピック日本大会組織委員会への委員推薦依頼について。

宮下会長を推薦する。

5) 学生ヒマラヤ野外実習プロジェクト(世話人代表吉田勝・在田一則・酒井哲弥)プログラム推薦依頼。

日本地質学会の推薦が欲しいと依頼があった。個人旅行として推薦することに大きな問題はないので推薦する。

6) 産総研より「地質ニュース」発行終了(2011.3)に伴い、同誌の今後商業誌として継続刊行の可能性についてのアンケート

地質学会としては難しいと回答する。

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

<外部の賞の募集>

1. 第 52 回藤原賞受賞候補者推薦依頼，自然科学が対象，選考は 5 分科，〆切 2011/1/31
→ geo-flash, HP, News 誌掲載

<共催・後援その他依頼・要請等>

1. 日本アイソトープ協会「第 48 回アイソトープ・放射線研究発表会」(2011/07 予定) 共催依頼と運営委員の推薦依頼があり，例年どおり共催を承諾し，委員として山口耕生理事を推薦。
2. 環境地質部会に対し 1) と 2)，第四紀地質部会に対し 1) の共催依頼があり，当該部会に文書を転送した。その後，環境地質部会は承諾の返答済みの連絡あり。
 - 1) 「更新統前期-中期境界国際シンポジウム」2011/1/15-16 実行委員会委員長 風岡 修
 - 2) 「第 20 回環境地質学シンポジウム」2010/12/3-4 主催 地質汚染-医療地質-社会地質学会

<その他>

1. 大学評価・学位授与機構にたいし関別認証評価委員会専門委員候補者を推薦した。
2. 科研費細目キーワード見直し提案に関し，使用状況資料が提供されたが変更の必要性は認められなかった。
3. 学術会議主催 シンポジウム「公益法人申請のための最新情報説明会」の開催，11/25 学術会議 → 事務局橋辺出席。
4. 学術著作権協会主催 著作権講演会「世界から見た複製権の状況と世界複製権機構について」12/3 赤坂グランドプリンスホテル → 斎藤理事が出席。
5. 地盤工学会，東レ科学振興会が公益法人となった挨拶状。
6. 東大大気海洋研究所より共同利用の公募案内 → geo-flash, HP に掲載
7. 日本アイスランド地熱エネルギーフォーラム (11/16, 国連大学) の案内
8. 国土技術政策総合研究所講演会 (12/1) の案内 → geo-flash, HP に掲載
9. 海洋調査技術学会第 22 回研究成果発表会の開催案内 → geo-flash, HP に掲載

<会員の動静その他>

1. 今月の入会者 (3 名)
 - 正会員 (1 名) 松本裕司
 - 正〔学部割〕会員 (2 名) 烏田明典，松井一貴
2. 今月の退会 (正 1 名) 北村悠子
3. 10 月末日会員数
賛 28 名誉 75 正会員 4139 (内訳：正 3918, 院割 198, 学部割 23) 合計 4242 (昨年比 -122)

(2) 運営財政部会：会計委員会

1. 会計委員会の開催 11/05

- ・富山大会の会計報告概要および水戸大会の予算等について

富山大会はわずかに収入が上回りそうな状況。茨城大会について，鉱物科学会との共催で開催可能な予算計画が立てられそうである。

- ・2011 INHIGEO 国際地質学史委員会年会の共催に関わる拠出金について

Second Circular 発信後の様子により、来年度の会計より上限を 20 万円として支出する予定。

・地学オリンピック委員会への拠出：年間協賛金 30 万、日本大会への協賛金として今年度予算から 25 万円、以後次年度予算から支出する。

・編集業務委託（日本印刷）について経費見積り及び年間予算について
年間費用概算で 300 万円。委託する方向で進める。

2. 事務局のパソコン（編集用、庶務用各 1 台）について、リース料および保守料金がこれまでより減額になることを確認し、新機種に入れ替えた。

3. 学術著作権協会 2010 年度副社使用料分配通知：54,342 円

(3) 広報部会：広報委員会

1. SNS(友の会)のテスト運用について

試験運用開始。初期人数約 40 名。今後仲間を増やしていく。

(4) 学術研究部会：行事委員会

1. 水戸大会について、11/5 茨城大学にて打ち合わせを実施。

・開催日程の変更について：大学使用上、併用不都合の他行事と重なったため日程変更の申し入れがあった。9 月 2-4 日を 1 週間後の 9-11 日(金-日)に変更するよう調整中。

・書籍「地学は何ができるか」の公開シンポジウム(学術シンポジウムとは別枠)を大学の講堂で考えている。関連トピックセッションも検討中。

・地学オリンピック関係のトピックセッションを検討中。

・ジオパークの市民講演会は大学講堂、一般市民向けの小中の理科研究発表会は情報展と同じ会場で開催予定。

・関東支部は 2 つのシンポジウムまたはトピックセッション(防災・応用地質関係ともう一つ)を検討中。

・地質情報展と市民講演会による科研費を申請予定(研究成果公開発表 B)。

・シンポジウムの公募は 2-3 件を予定。トピックセッションを増やす予定。セッションは発表負担金を支払えば発表を 2 件まで認める予定。

2. 2012 年大会(大阪)の大会準備委員会組織は次の通り。

委員長；前川寛和(大阪府大) 副委員長；宮田隆夫(神戸大)

事務局長兼庶務；石井和彦(大阪府大) 庶務補佐；三田村宗樹(大阪市大)

見学旅行担当；奥平敬元(大阪市大) 見学旅行案内書編集委員長；竹村厚司(兵庫教育大)

3. 2013 年以降の年会開催地：東北支部から東北大学に決定との通知あり。鉱物科学会との開催の可能性あり。

4. 2011 年連合大会のセッション提案において、13 セッションが地質学会を提案母体とすることを確認。

(5) 学術研究部会：国際交流委員会(石渡)

1. 2012 年の 34th IGC(オーストラリア, ブリスベーン)の事務局長 Ian Lambert 氏が 11 月 9 日来日。斎藤靖二学術会議 IUGS 分科会委員長と石渡国際交流委員長名にて関係学協会にも呼び掛け、以下の会場でプロモーション活動を行った。1st. Circular はすでに公開されており(<http://www.34igc.org/>)、地質学会からも広報する。

11 月 9 日 東京(JAMSTEC 東京事務所)参加者 11 名 講演 1 時間、質疑 1 時間ほど。

11月10日 つくば 産総研 参加者10名

資源、環境のトピックセッションが多く予定されている。大いに運営に関与して欲しい。
トレーニングコースも予定。

(6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

1. 編集状況報告（11月11日現在）。

- ・2010年度投稿論文 総数63編 [総説21（和文21）、論説28（和文26・英文2）、報告4（和文4）、短報8（和文8）ノート2（和文1・英文1）] 口絵12（和文7 英文5）
- ・査読中 40編 受理済み 20編（うち通常号7 特集号13）
- ・116巻11月号：特集号「日本海沿岸褶曲・断層帯の形成・成長と地震活動」（世話人 高木秀雄ほか）総説2・論説3・口絵1（計55ページ 現在校正中）
- ・116巻12月号：総説1・論説3・短報1・ノート1・口絵1（約60ページ 入稿準備中）

2. 編集委員の交代

【新任】2010/11～2012/10 末まで

上野勝美（層序部会）・永田秀尚（応用地質部会）・小宮剛

【留任】2010/10～2012/11 末まで

秋元和実・能美洋介・七山 太

【退任】2010/9 or 11 末で退任

永広昌之（層序部会）・竹下 徹・加藤泰浩（構造部会）・柏木健司（応用地質部会）

（注意：柏木委員以外は、残務終了時で正式退任）

3. J-STAGE 投稿審査システム（査読システム）について：JSTより2011年秋「J-STAGE3」

運用開始に伴い、査読システムの大幅変更の説明があった（11/1説明会）。新システムへの移行について、編集委員会で検討予定。システムは2種類あり、二者択一を迫られている。

(7) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

1. 編集状況報告

投稿数が減少していて、2011年2号以降の原稿は確保されていない。

(8) 編集出版部会：企画出版委員会（担当：山口、藤林）

1. リーフレット「日本列島と地質環境の長期安定性」（名大・吉田）、査読後の修正が到着修正内容を担当理事で確認済、近日中に受理の方向で検討
2. フィールドジオロジー、原稿提出の催促を書面にて著者に通知。担当者から返事あり。年内を目処に提出予定とのこと
3. 「一家に一枚ポスター企画募集」、地球史年表（清川編集）で応募するも、不採択の通知リーフレットとしての作成案は平行して進んでいる。

(9) 社会貢献部会（藤林）

1. 地学教育委員会（中井）

- ・年会事業の報告

小さなEarth Scientistのつどいに、地元の参加がなかった。常連校が固定化してきている。

個人参加を認めるかが今後の検討課題になる。

夜間小集会の参加者は少なかった。理科教員対象見学旅行は男女共同参画委員会と共催で行い盛況であった。

・今年度の高等学校地学教員の採用状況について

二次合格者が確認されているのは青森(1)，茨城(1)，大阪(4)，広島(1)。秋田は最終結果が不明。

・矢島理事より：「第八回ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ (JSEC2010) ～高校生“科学技術”チャレンジ～」の審査委員に指名されたとの報告を受けた。

(10) オリンピック支援委員会 (久田)

委員構成：委員長 田中義洋 (学芸大付属高)・副委員長 川村教一 (秋田大教育文化)

委員 香束卓郎 (埼玉独協中高)・渡来めぐみ (茗溪学園)・小泉治彦 (千葉県立我孫子高)・
浅野裕史 (千葉県立佐原高)・芝川明義 (大阪府立花園高)・川勝和哉 (兵庫県立加古川東高)・
久田健一郎

(11) 名誉会員推薦委員会

1. 階層別委員として下記の方々を理事会に推薦する (内諾済み)。

大学；佐野弘好 (九州大学)，官公庁；栗本史雄 (産総研)，小中高；田中義洋 (学芸大学附属高校)，会社；
須藤 宏 (応用地質株式会社)

理事会から1名；12月の理事会で選考する。